

ガス値上げ後の ウクライナの行方

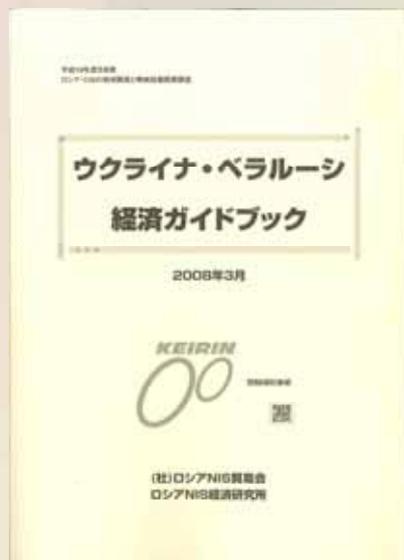
2009.2.9

ロシアNIS経済研究所 服部倫卓

<http://www.rotobo.or.jp>

<http://www.hattorimichitaka.com>

ロシアNIS貿易会のウクライナ関連書籍



(社)ロシアNIS貿易会・ロシアNIS経済研究所編『ウクライナ・ベラルーシ経済ガイドブック』(2008年、B5判、264頁)



『ロシアNIS調査月報』2008年3月号、「特集 繁栄と混沌のウクライナ」

服部倫卓「鉄鋼立国ウクライナの蹉跌」『ロシアNIS調査月報』2009年1月号。

同「危機に揺れるウクライナの経済と産業」『ロシアNIS調査月報』2009年2月号。

数字で見るウクライナの経済危機

2008年終盤のウクライナの月別主要経済指標

	8月	9月	10月	11月	12月
国内総生産（前年同月比増減率、％）	10.9	5.5	▲ 2.1	▲ 14.4	
鉱工業生産（前年同月比増減率、％）	▲ 0.5	▲ 4.5	▲ 19.8	▲ 28.6	▲ 26.6
鉱業	2.3	▲ 1.2	▲ 10.0	▲ 32.1	▲ 20.1
エネルギー資源	4.2	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 6.8	0.2
エネルギー資源以外	0.3	▲ 2.3	▲ 20.6	▲ 60.2	▲ 42.4
製造業	▲ 1.1	▲ 5.3	▲ 21.1	▲ 29.0	▲ 28.3
食品、飲料、タバコ	▲ 3.5	▲ 5.5	▲ 10.9	▲ 8.7	▲ 4.9
軽工業	▲ 9.9	▲ 2.1	▲ 6.3	▲ 19.1	▲ 17.4
コークス、石油製品	▲ 4.9	▲ 22.3	▲ 43.9	▲ 11.6	▲ 6.2
化学工業	▲ 9.1	▲ 2.1	▲ 19.2	▲ 35.2	▲ 38.0
冶金、完成金属製品	▲ 8.6	▲ 17.0	▲ 35.6	▲ 21.0	▲ 42.7
機械	13.4	14.6	▲ 11.2	▲ 38.8	▲ 37.1
輸出総額（100万ドル）	6,724	6,705	5,674	3,723	
輸入総額（100万ドル）	8,157	8,415	7,584	5,269	
消費者物価（前月比上昇率、％）*	▲ 0.1	1.1	1.7	1.5	2.1
卸売物価（前月比上昇率、％）*	1.8	▲ 3.8	▲ 1.4	▲ 6.5	▲ 0.4
為替レート(月末、1ドル当たりグリブナ)	4.85	4.86	5.76	6.74	7.70

（注）* はデフレを意味する。

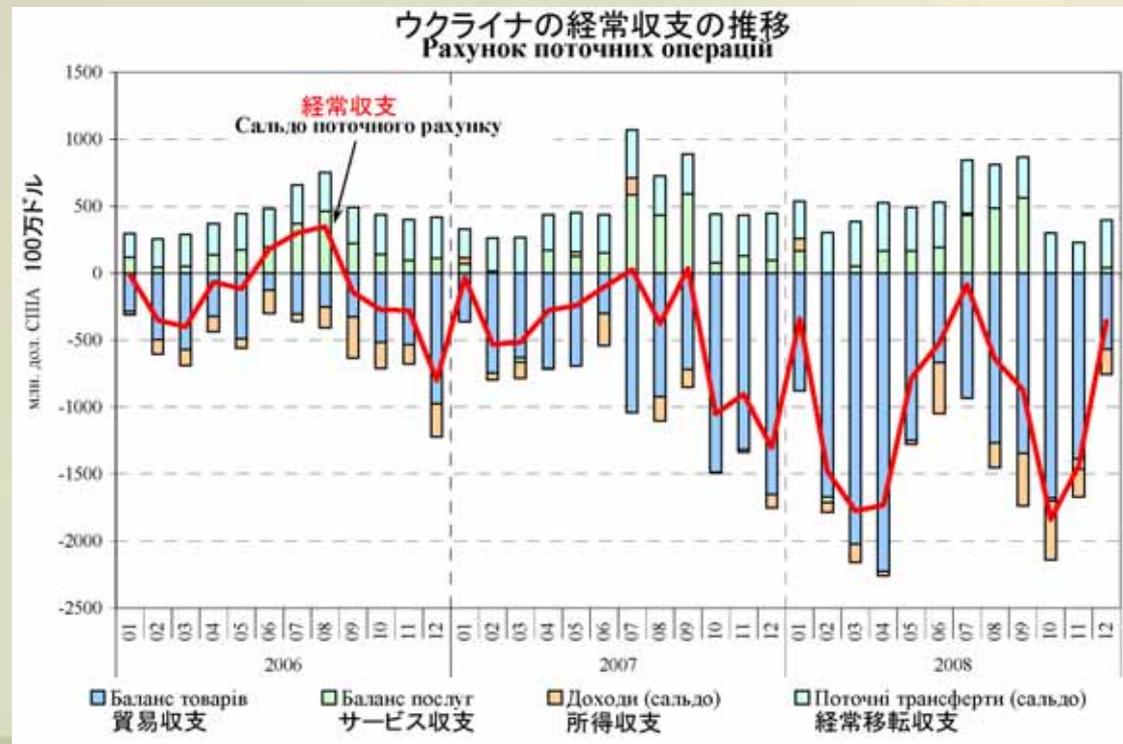
（出所）ウクライナ統計国家委員会。

- 8～9月頃から指標が悪化。2008年通年のGDPは前年比2.1%増だが、第4四半期は明らかにマイナス成長。とくに基幹鉱工業部門の落ち込みが大きい。
- ただし、生産落ち込みの底は11月であり、それ以降はごくわずかではあるが回復の兆しが見られる。
- 2008年にウクライナ株式市場は74%下落、世界でも屈指の下落率。
- 経常収支赤字の拡大、卸売物価の下落など要注意。

経常収支赤字の拡大

- ウクライナ中央銀行の速報によれば、2008年の経常収支は119億ドルの赤字、対GDP比6.7%。前年の53億ドルの赤字、対GDP比3.7%から悪化。
- 164億ドルのスタนด์バイクレジットの際にIMFに表明した、「経常赤字をGDPの1～2%以内に抑える」という公約は、まず実現不可能なのではないか？ 2月15日にIMFによる最初の評価が行われるが、第2トランシュ以降は融資が下りるのだろうかという疑問。

- 当然のことながら、2009年以降、天然ガス料金の値上げが、経常収支をさらに圧迫する。一説には(後述)30億ドル程度の輸入増。



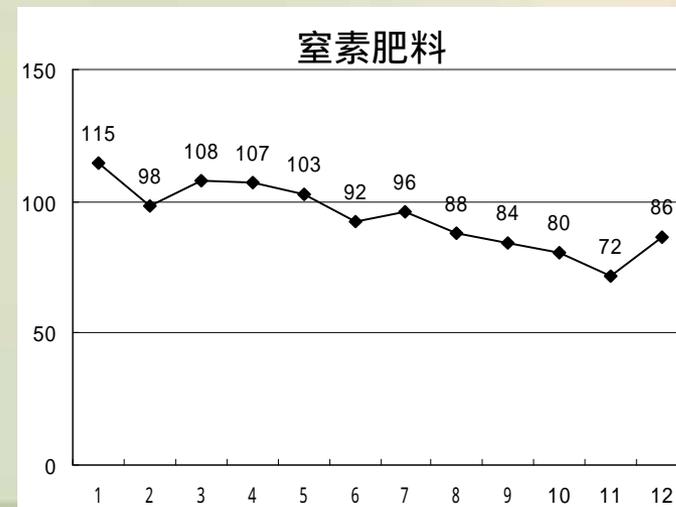
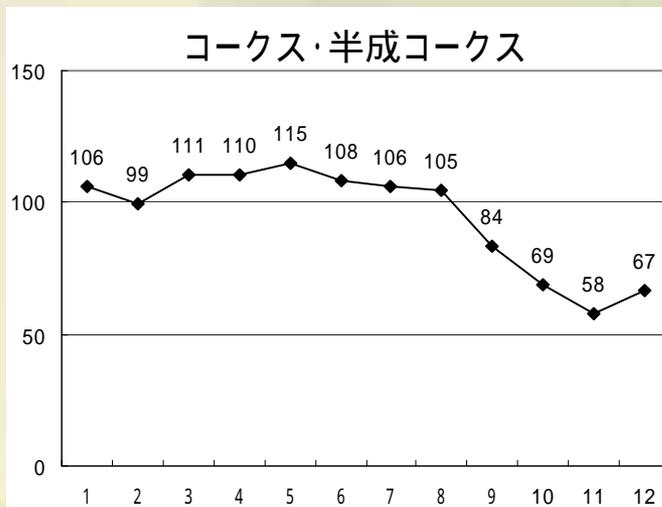
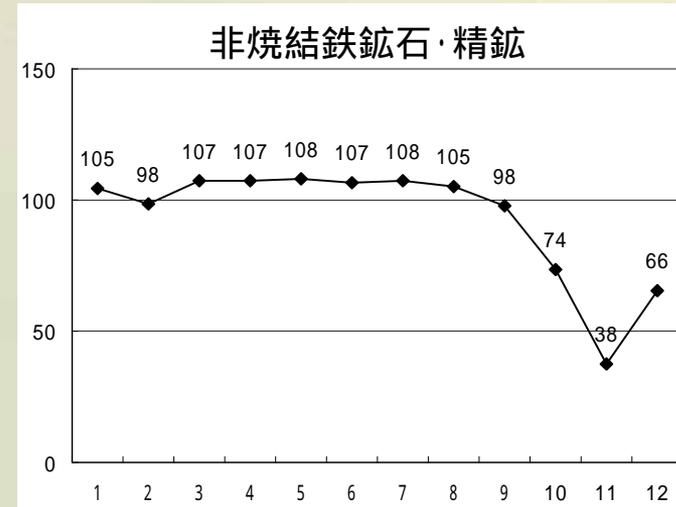
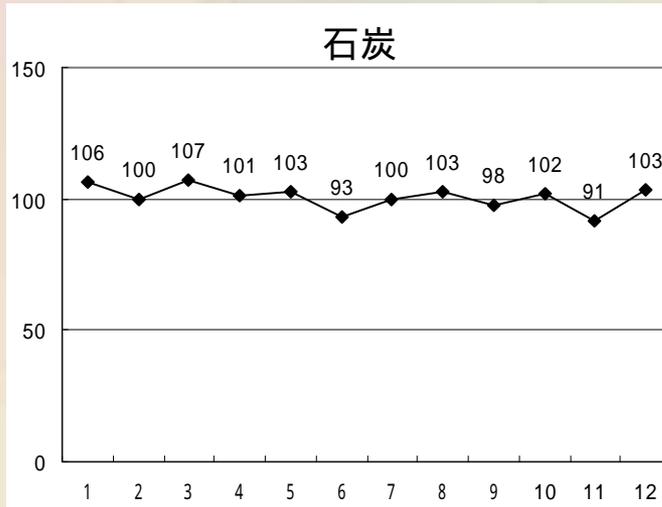
参考：IMFスタンバイクレジットのスケジュール

Table 1. Ukraine: Access and Phasing Under a Proposed Stand-By Arrangement

Date Available	In millions of SDRs	In percent of quota	Conditions include
November 2008	3,000	218.7	Board approval of arrangement
15 February 2009	1,250	91.1	Observance of end-December performance criteria and completion of the first review
15 May 2009	2,500	182.2	Observance of end-March performance criteria and completion of the second review
15 August 2009	750	54.7	Observance of end-June performance criteria and completion of the third review
15 November 2009	2,000	145.8	Observance of end-September performance criteria and completion of the fourth review
15 February 2010	375	27.3	Observance of end-December performance criteria and completion of the fifth review
<i>Quantitative and structural performance criteria for remaining scheduled purchases in 2010 are expected to be established at the time of the third review.</i>			
15 May 2010	375	27.3	Observance of end-March performance criteria and completion of the sixth review
15 August 2010	375	27.3	Observance of end-June performance criteria and completion of the seventh review
15 October 2010	375	27.3	Observance of end-September performance criteria and completion of the eighth review
Total	<u>11,000</u>	<u>802</u>	

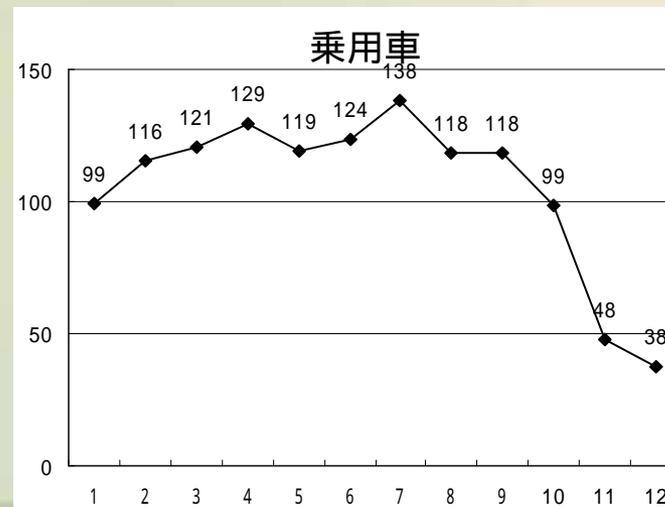
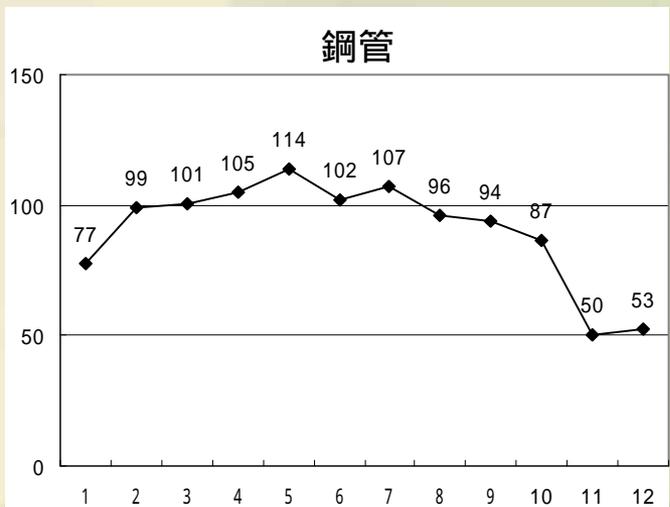
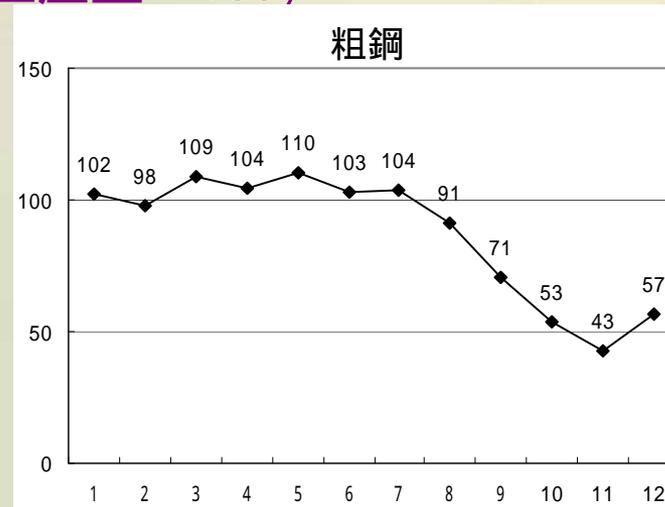
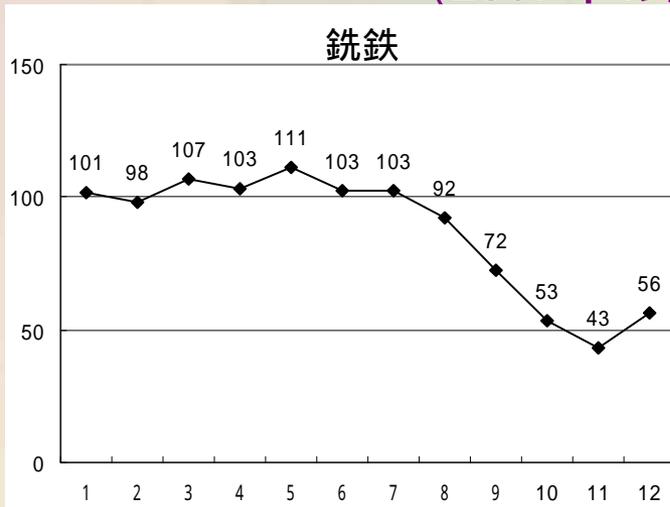
2008年のウクライナにおける 主要鉱工業製品の月別生産動向(1)

(2007年の月平均生産量 = 100)



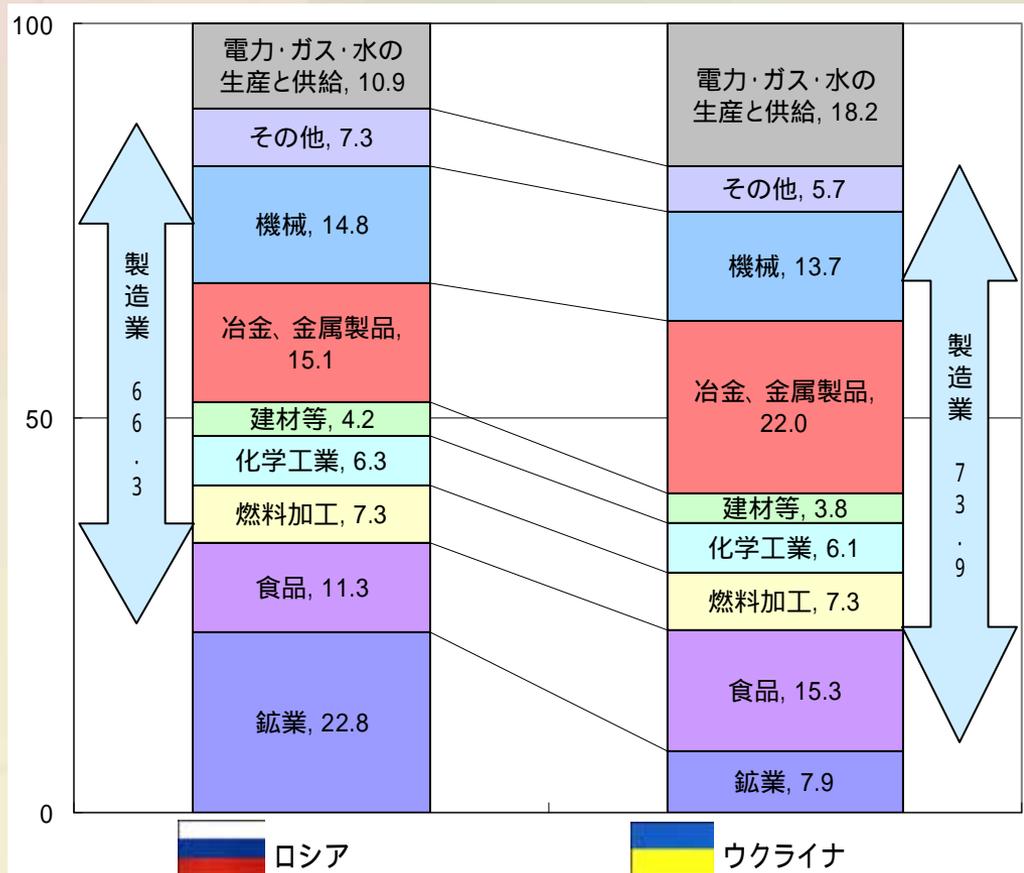
2008年のウクライナにおける 主要鉱工業製品の月別生産動向(2)

(2007年の月平均生産量 = 100)



ロシアとウクライナの鉱工業生産構造比較

(2007年、構成比%)



- ロシアよりもウクライナの方が製造業の比率が大きく、一見すると、エネルギー・資源偏重のロシアよりも高度な産業構造のようにも思える。
- しかし、ウクライナの基幹産業である鉄鋼、機械、化学は小回りの利かない装置産業であり、付加価値が低いというえに、原燃料多消費型。

鉄鋼生産国としてのウクライナの地歩

- ウクライナは2007年の時点で世界第8位の鉄鋼生産国で、世界シェア3.3%。また、日本、ロシアに次ぐ世界第3位の鉄鋼輸出国。
- しかし、世界の主要鉄鋼生産国中、2008年の世界経済危機で最も大きな被害を受けたのがウクライナ。2008年の粗鋼生産は前年比13.4%減で、主要国のなかで唯一、2ケタの減少。とくに10～12月の生産水準は、前年同期からほぼ半減。半分近い高炉が停止する事態。



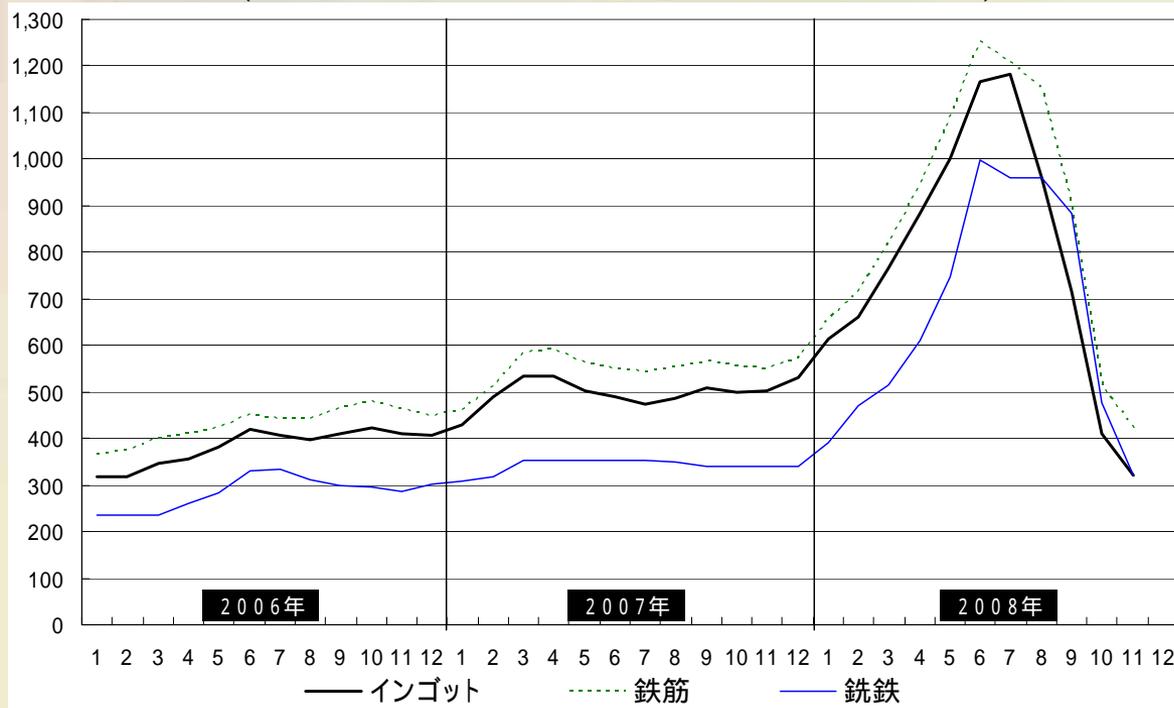
ドネツク州のアゾフスターリ

なぜウクライナ鉄鋼業の不振が際立つのか？

1. ウクライナ鉄鋼業は輸出依存度がきわめて高い。ウクライナで生産される鋼材のうち、7～8割が輸出に向けられていると言われている。
2. しかも、輸出の多くは長期契約ではなく、スポット契約。それだけ、国際市況の乱高下に翻弄される度合いが、他国よりも大きい。
3. ウクライナの鉄鋼輸出は半製品が中心で、付加価値の低い構造となっている。スポットで半製品を輸出するというビジネスは、景気の良い時はいいが、いったん市況が悪化すると、脆弱性を露呈する。

鉄鋼国際市況の乱高下

鉄鋼の月平均輸出価格の推移
(CIS産、黒海・バルト海諸港FOB、1t当たりドル)

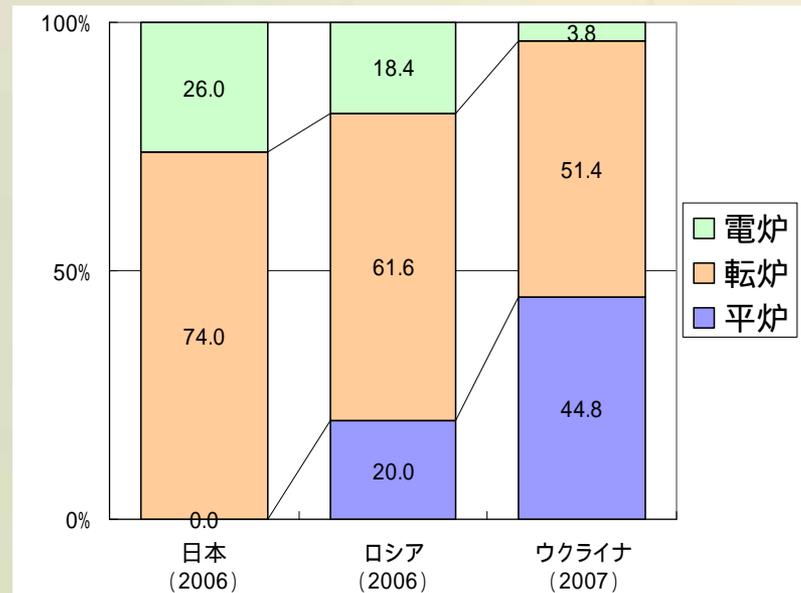


- 2008年に入って異常な急騰、夏には1t当たり1,000ドル超という歴史的な高値。実需に加え、投機的な側面も。
- 原燃料費も上昇していたが、鉄鋼価格はそれを補って余りある高騰を示していたため、ウクライナの鉄鋼メーカーはスポット輸出に精を出した。
- 8月頃に在庫がだぶつき始めたところに、9月のリーマン・ショック、需要が一気に冷え込み、ウクライナの各社は大幅な減産を余儀なくされた。

ウクライナ鉄鋼業の技術的後進性

- ウクライナでは、前時代の遺物である平炉が、いまだに粗鋼生産の半分近くを占めている。
- 平炉は、生産性が低く、歩留まりが悪く、コスト高・エネルギー多消費であり、環境負荷も大きい。先進国はおろか、中国でもすでに廃棄された製法。
- ウクライナ鉄鋼業の技術水準は、先進国から30～40年遅れている。ソ連時代はひたすら生産量重視、ソ連崩壊から10年ほどは生き残るだけで精一杯、最近数年は世界的特需で低品質でも売れたため、近代化しないまま今日に至ってしまった。

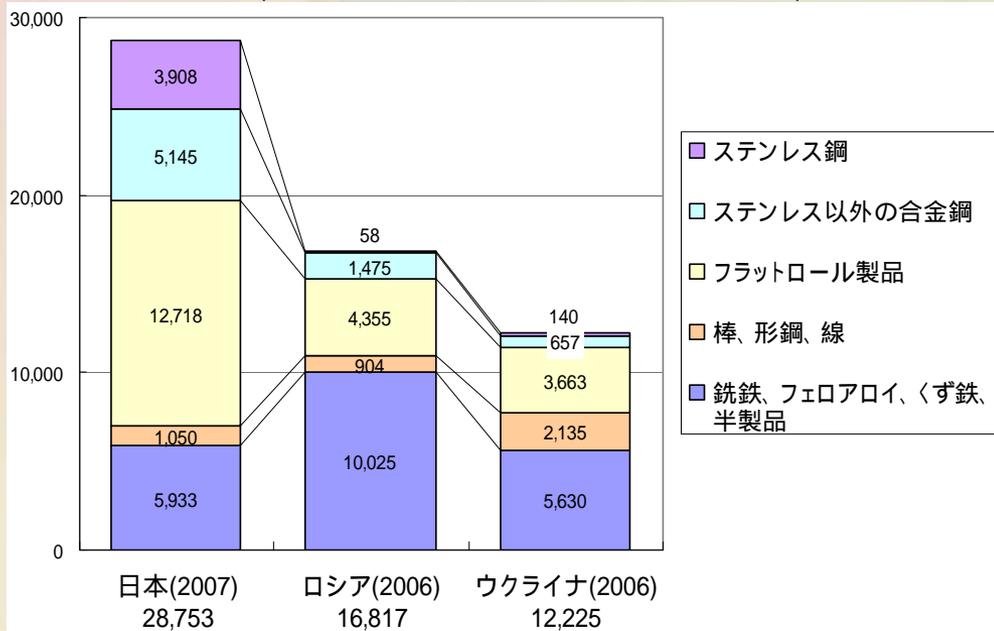
製法別粗鋼生産
(構成比、%)



(出所) 日本、ロシアは、(社)日本鉄鋼連盟『鉄鋼統計要覧2007』。ウクライナは、<http://www.miningexpo.ru/news/11819>

半製品中心のウクライナの鉄鋼輸出

世界3大鉄鋼輸出国の輸出構造比較
(第72類の輸出、単位は100万ドル)



- 左図は、概ね、上の品目ほど付加価値が高い。ロシア、ウクライナは付加価値が低い半製品(スラブ、ビレット、ブルーム)、銑鉄などが中心。
- 鉄鋼(第72類)の1t当たりの平均輸出価格は、日本:770ドル、ロシア:388ドル、ウクライナ:412ドル。

- **ウクライナ鉄鋼業にとって今回の経済危機は、単に一時的な需要減や価格下落にとどまらない痛手。**もし好景気があと2年くらい続いていたら、各メーカーは日本を含む先進国から設備を導入して、低い技術水準、プリミティブな生産構造から脱却できていたかもしれない。今の状況では、しばらくは現状維持が精一杯であろう。千載一遇の機会を逃し、近代化の展望が当面遠のいた。

ガスとの決別を迫られるウクライナ鉄鋼業

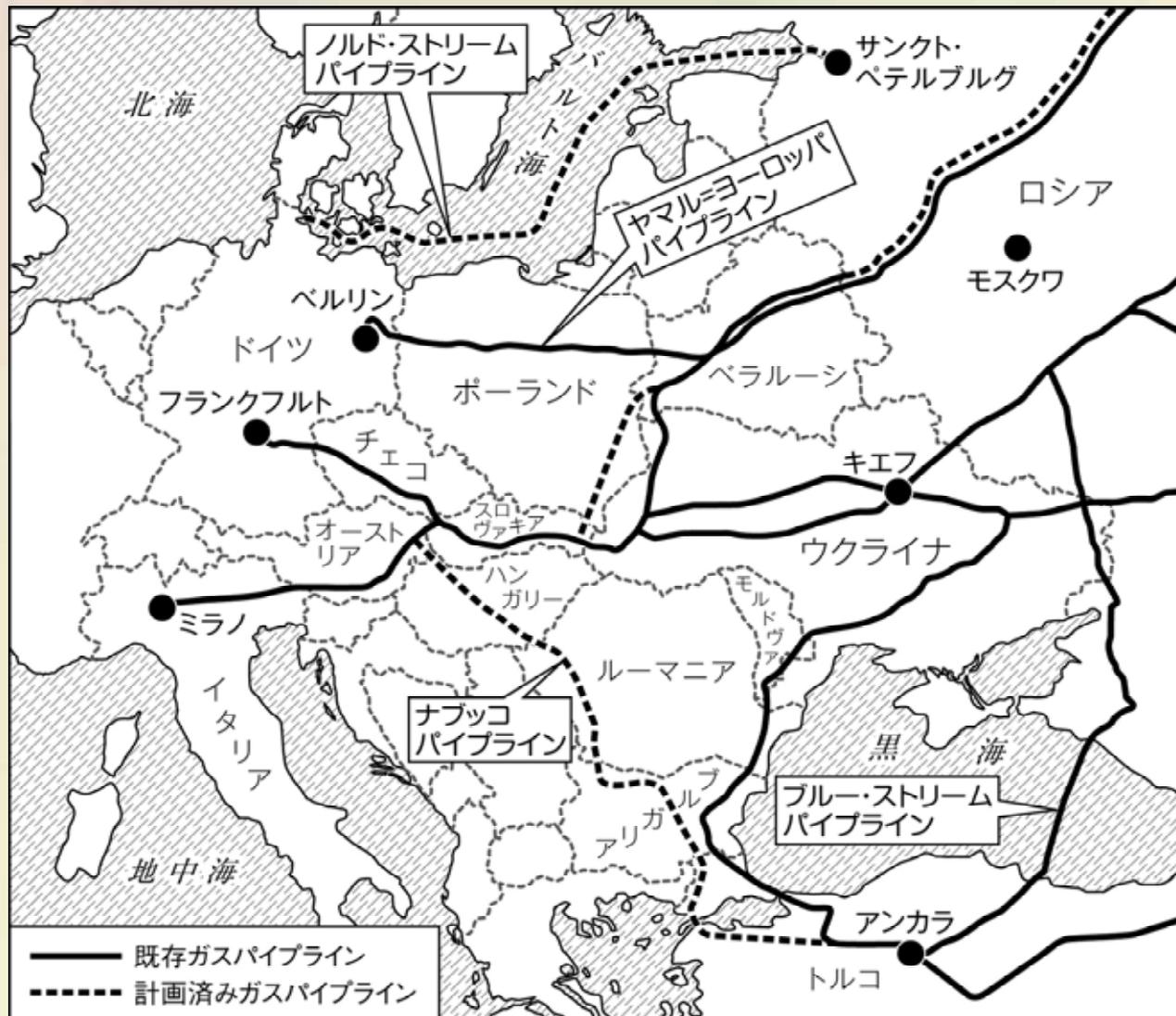
- 一般に、製鉄所の高炉生産においては、燃料および還元剤として、コークスが用いられる。しかし、ウクライナではこれまで、コークスの代わりに天然ガスを投入する製法が盛んだった。これは、天然ガスがきわめて安価でないと成り立たない製法であり、世界の主要国ではウクライナと、一部ロシアで用いられるのみであったとされる。 **ウクライナの産業構造が「安いガス」を前提としていることを象徴。**
- ヤヌコヴィチ元首相指摘、「ウクライナ経済にとって250ドル以上の天然ガス価格は破滅だ。需要家向けには300ドルを超える。専門家I.ハルチューク氏指摘、「300ドルというガス価格は、ウクライナの鉄鋼メーカーにとってきわめて厳しい。」
- 天然ガスの値上げを受け、見直しが急務に。2008年11月10日、ウクライナ政府と鉄鋼メーカーが危機対策・相互協力に関するメモランダムに調印。そのなかで鉄鋼メーカーが、天然ガス消費を減らしコークスにシフトすることをコミット。ティモシェンコ首相が進捗の遅れに苛立つ場面もあったが、大手各社は実際に秋頃から高炉でのガス使用を止めてコークスに切り換えつつある模様。SCM傘下のアゾフスターリ、エナキエヴォ、またアルセロールミタル・クリヴォイログなど。
- 現状ではウクライナの天然ガス消費が年間750億立米、うち冶金セクターの消費量が70億立米だという。 **一説には、高炉の天然ガスをコークスに置き換えるだけで、冶金セクターのガス消費を半減できるという。** ということは、これだけで35億立米、5%近い節約に。ただし、コークスに切り換えるのにも、それなりの投資が必要。

構造的な危機に直面する化学工業

- ウクライナにとって化学工業は、鉄鋼業に次ぐ重要な輸出産業。化学品は輸出の10%あまりをコンスタントに占めてきた。
- ただし、輸出の主力は窒素肥料であり、その原料はロシアから輸入する天然ガス。ここでも、低付加価値と、原料の輸入依存・高騰という問題に直面していることになる。ウクライナの化学企業の場合、商品の原価に占める天然ガスのコストが60～70%にも及ぶとされる。
- ガスプロムが2～3年前からウクライナ向けのガス供給価格を欧州市場並みに引き上げる動きを見せ始めたことを受け、一時ウクライナのオリガルヒたちは化学工業からの撤退も検討したとされる。ただ、この間の国際的な肥料価格の高騰は、ガス価格の値上がりを補って余りあるものだったので、撤退シナリオは遠のいていた。それが今回は、世界経済危機による需要減・価格下落と、ウクライナ向けガス供給価格の欧州価格化に同時に直面しているのだから、事態は深刻。
- 現在のようなアンモニアの価格水準で、ガスが200ドルになったら、赤字になるとの指摘も。

鉄鋼業以上に、全面的に天然ガスに依存。ガスが欧州価格になったあかつきには、一切の優位性を失い、存亡の危機に立たされることにもなりかねない。

ウクライナおよび周辺諸国の天然ガスパイプライン地図



(出所) 田畑伸一郎編『石油・ガスとロシア経済』北海道大学出版会、2008年、257頁。

ウクライナ政局の観点から見たガス戦争

- ロシア、ウクライナとも、交渉を速やかに妥結させる熱意はなかった。前提としてあったのは、ウクライナ国内のユーシチェンコ大統領VSティモシェンコ首相の対立であり、両者はガス問題の合理的な決着よりも、お互いを蹴落とすことに主眼を置いた。そして、その権力闘争にロシアが介入することで、交渉がこじれた。
- ユーシチェンコ大統領の思惑。 自らの利権の源泉である「ロスウクルエネルギー」による仲介スキームを維持したい。 ライバルのティモシェンコ首相がガス交渉で得点を挙げることを阻止したい。 国民の反ロシア感情に訴えて人気回復を図りたい。
- ティモシェンコ首相の思惑。 対ロシア交渉で実績を挙げて内外での名声を高めたい。 ライバルのユーシチェンコ、ヤヌコヴィチと結び付いている「ロスウクルエネルギー」をガス取引から外し、自らの息のかかった「ナフトガス・ウクライナ」による直接輸入に移行して、大統領選に向けた資金源を確保したい。
- ロシアの思惑。当初、「ロスウクルエネルギー」を通じユーシチェンコ大統領に利権に与らせていたが、NATO加盟問題やグルジア戦争で同大統領を見限り、ロスウクルエネルギーを外しティモシェンコ首相支持に転換。さらに、EUもにらんだ政治ゲームを展開。「悪いのはウクライナだ」というアピール？
- 参考資料

藤森信吉「ウクライナから見た『天然ガス戦争』」『ロシアNIS経済速報』2009年1月25日号。
同「明らかになったロシア・ウクライナのガス契約」『ロシアNIS経済速報』2009年2月5日号。
月出皎司「『ガス戦争』の損得計算」『ロシアNIS調査月報』2009年3月号。

ロシアとの契約成立後、対立を深める2人



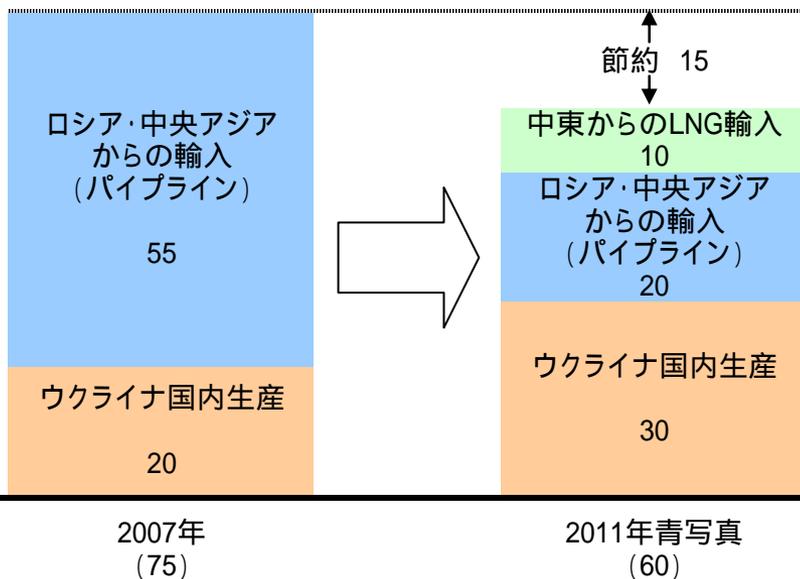
- 1月31日にユーシチェンコ大統領が国民向けに緊急声明を発表し、内閣、議会の無責任な言動を非難。「モスクワでティモシェンコ首相は、ウクライナにとって不利なガス合意を締結した。諸契約は私の指令に反している。首相は、政府の合議を経ないで、個人的に決定を下した。2009年にウクライナは、2008年よりも250億グリブナ(約30億ドル)多く、ガスに払わなければならない。ところが、トランジット収入は、2008年と同水準である。首相は承知しているはずだが、支払いのためには、需要家向けの料金を上げるしかない。早急に2009年国家予算を修正することを要求する。1月の税収は予算の半分以下である。現予算こそ、ウクライナの危機の元凶だ。憲法によれば、経済状況、予算過程の麻痺、銀行システムの破壊の責任は、ティモシェンコ首相にある。」



- ティモシェンコ首相反論。「『ユーシチェンコの声明』と称するものは、ウソとパニックとヒステリーの寄せ集め。ウクライナが世界経済危機の試練にさらされている時にふさわしいリーダーではない。大統領にはお気の毒だが、1月の税収は予算を超過達成。住民向けのガス料金は昨年のまま据え置く。ナフトガスは国内向け、欧州向けにスムーズにガスを供給しており、しかも過去数年で初めて、怪しげな仲介業者を排除した。大統領よ、役に立たないなら、せめて邪魔はしないでくれ。危機に対処するのに必要なのは、政治的団結、知性、決断、責任感であり、それらはまさにユーシチェンコ氏に欠けている資質。」

ロシア・ガス依存からの脱却をめざして

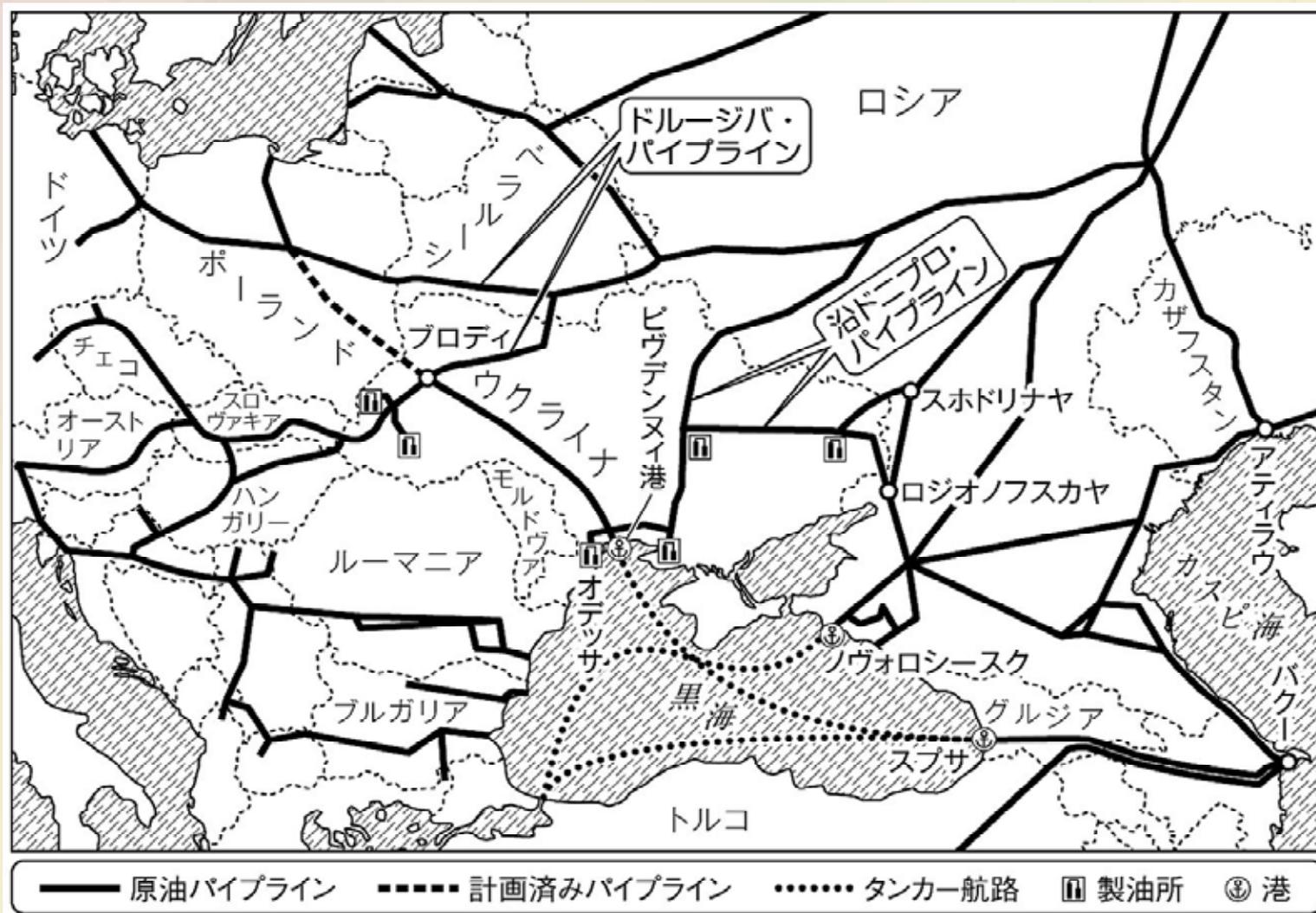
ウクライナ燃料・エネルギー省が描く
天然ガスの節約・自給拡大のシナリオ
(単位:10億m³)



(出所) 『コメルサント・ウクライナ』紙(2009.1.19)をもとに作成。

- 現時点のウクライナのガス消費は年間750億立米で、内訳は市民消費190億、熱供給・公営事業190億、鋳工業380億。鋳工業の内訳は、電力120億、化学90億、冶金70億、機械45億など。
- 左図はウクライナ燃料・エネルギー省が描くシナリオ。試算の域を出ないと思われるので悪しからず。
- 発電や公営事業に使っているガスを石炭や重油に切り換えると、年間100億立米のガスが節約できるという。このほか、上述の製鉄所における節約などで、4年間で150億を節約するというプラン。
- 一方、供給側では、国内生産を拡大するとともに、中東からLNGを輸入し、ロシアからの輸入を圧縮することを目指す。
- ただし、この計画を実現するためには、75億ドルの投資が必要という指摘も。

ウクライナ周辺の原油パイプライン・システム



(出所) 田畑伸一郎編著『石油・ガスとロシア経済』北海道大学出版会、2008年、253頁。

オデッサ～プロディ・パイプラインの近況

- 現在は、逆方向の利用で、年間900万t程度のロシア原油(TNK-BP、ルクオイルの原油)を輸送、ユージヌイ港経由で黒海に積み出している。
- 2008年8月にユーシチェンコ大統領が、パイプラインの順方向への転換を進めるよう、改めて政府に指示。しかし、ユーシチェンコ陣営が「プライベート」財閥と癒着してパイプラインの利権を同財閥に供与しようとしているという疑惑があり、ティモシェンコ内閣が順方向利用に抵抗。一方、ティモシェンコ首相がプーチン・ロシア首相と密約を結んでいるという疑惑もある。 **ガス問題と同じく、利権構造かつ政争の具と化している。**
- 「ガス戦争」を経て、本件が2009年の焦点になる可能性もある。

オデッサ～プロディ・パイプラインの起点(終点?)となるユージヌイ港のピヴデンヌイ石油ターミナル



政治家支持率(1)

大統領選に向けての支持率
(2008年11～12月の数字、%)

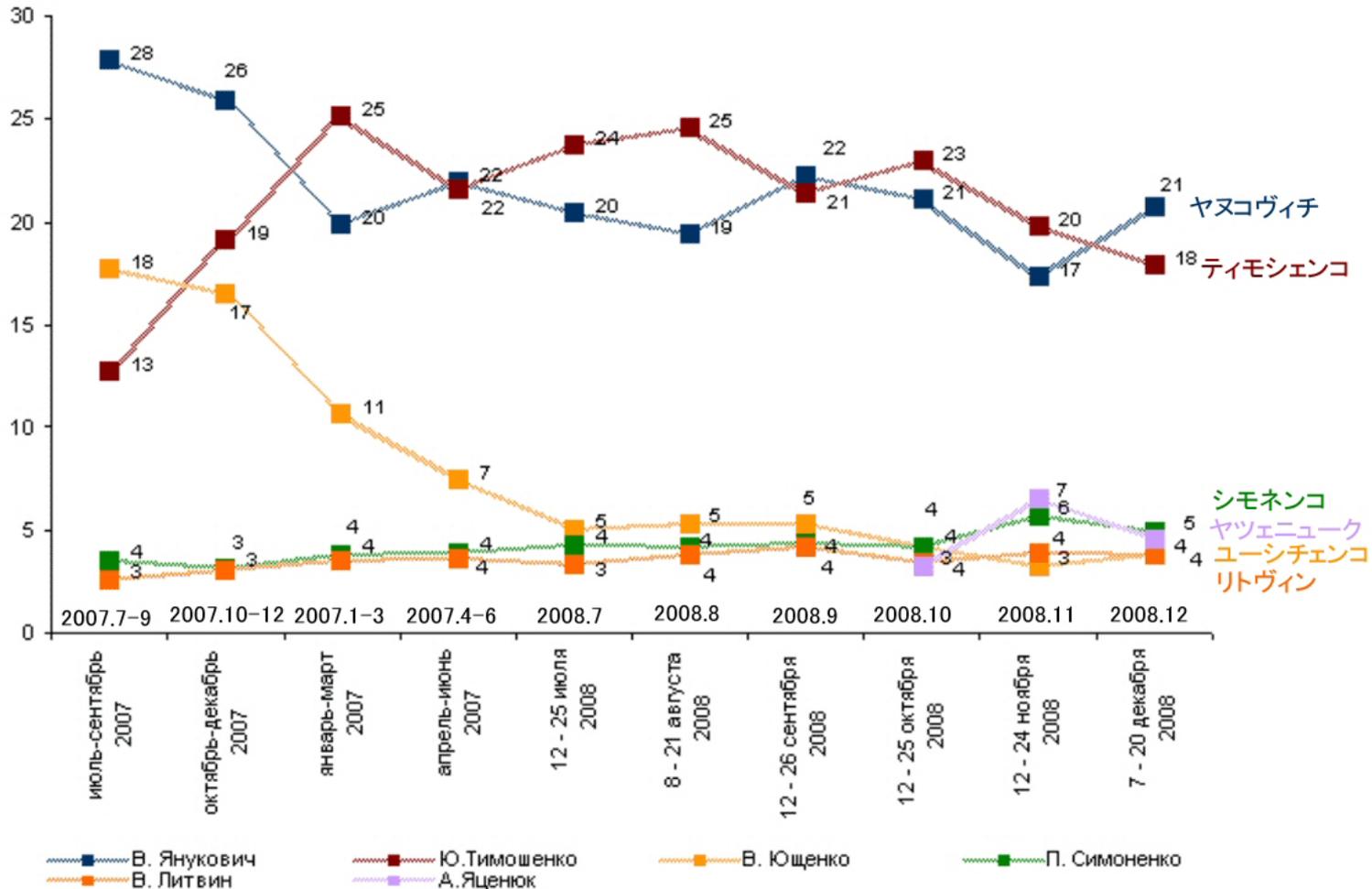
Президентские рейтинги²
(конец ноября – декабрь 2008 г.)

	R&B ³ (22-30.11)	Центр «София» (02-11.12)	УИСИ им. А.Яременко, Центр «Соц. мониторинг» ⁴ (07-17.12)	ФОМ- Украина ⁵ (07-20.12)	Центр им. А.Разумкова (17-24.12)	Фонд «Демократ. инициативы» и фирма USS (17-28.12)
1. ヤヌコヴィチ	22	24,7	26	23	22,5	22,3
2. ティモシエンコ	23	20,9	16	20	17,9	13,9
3. ヤツェニューク	7	7,5	5,5	5,5	7,5	7,9
4. ユーシチエンコ	6	5,4	5,5	4,5	5,1	2,4
5. リトヴィン	5	4,4	5,5	4,5	6,1	4,1
6. シモネンコ	6	7,7	7	5,5	6,0	3,6
7. グリツェンコ	-	1,2	1	-	1,5	1,4
8. ヴイトレンコ	1	1,7	1	-	0,9	1,2
9. クリチコ	-	-	-	1	-	-
10. ルツェンコ	1	-	1	-	-	-
	1	-	2	-	0,6	1,5
	-	-	1	1	-	0,7
	-	0,9	-	-	1,0	-
	1	5,2	3	1,5	-	1,3
すべての候補に反対	15	10,3	16	14,5	14,8	19,1
回答困難	12	9,9	9	19	15,7	20,4

(出所) <http://www.pravda.com.ua/news/2009/2/3/89007.htm> 以下同様。

政治家支持率(2)

Динамика президентских рейтингов
 大統領選に向けての支持率の推移(%)
 Данные ФОМ-Украина⁸



政党支持率(1)

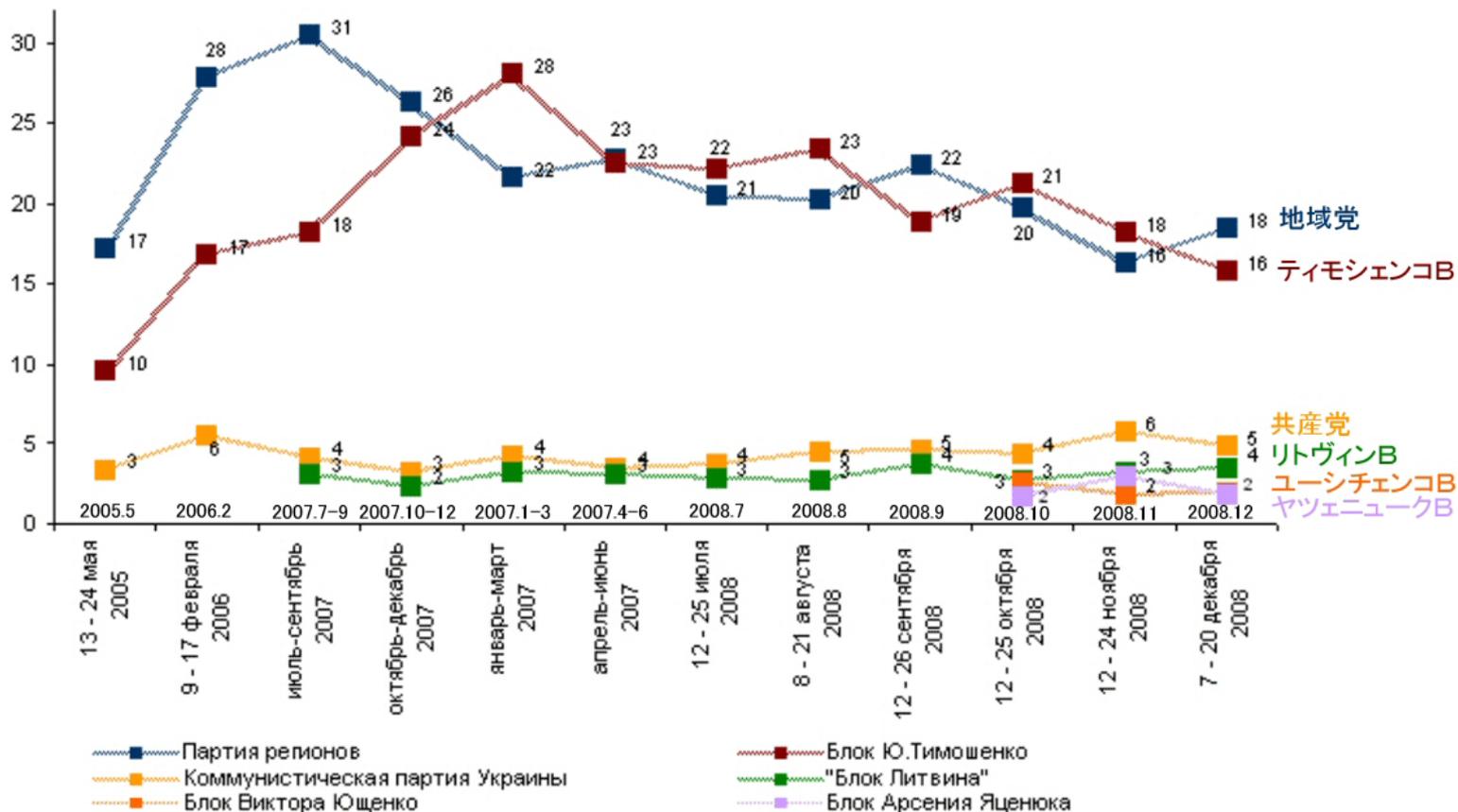
政治勢力支持率
(2008年11月末～12月、%)

Рейтинги политических сил⁶
(конец ноября – декабрь 2008 г.)

	R&B (22-30.11)	Центр «София» (02-11.12)	УИСИ им. А.Яременко, Центр «Соц. мониторинг» (07-17.12)	ФОМ- Украина ⁷ (07-20.12)	Центр им. А.Разумкова (17-24.12)	Фонд «Демократ. инициативы» и фирма USS (17-28.12)	
1. 地域党							
2. ティモシエンコB							
3. 共産党							
4. リトヴィンB							
5. ヤツェニュークB							
6. ユーシチェンコB							
	Партия регионов	22,5	22,7	21,7	21,5	27,2	31,5
	Блок Ю.Тимошенко	22,5	20,1	13,8	19	21,6	17,3
	КПУ	7	8,2	7,1	6	8,5	7,2
	Блок В.Литвина	6	5,9	5,2	5	6,7	4,4
	Блок А.Яценюка	-	5,5	3,1	2,5	6,6	5,1
	Блок В.Ющенко	5	3,3	3,7	2,5	4,2	3,8
	Всеукр.объединение «Свобода»	1,4	2,3	1,7	1	2,0	1,9
	Блок А.Грищенко	-	1,7	0,4	-	1,8	-
	ПСПУ (Н.Витренко)	1,2	2,6	1,2	1	1,2	1,0
	СПУ (А.Мороз)	1,5	1,2	1,6	1	1,0	2,4
	Блок Л.Черновецкого	-	0,6	0,5	0	1,0	0,7
	Блок «Народная самооборона» (Ю.Луценко)	-	-	0,8	1	1,0	0,5
	Блок В.Кличко	-	1,8	1,1	1	0,7	-
	Партия «Единый центр»	-	0,3	0,2	0	0,1	0,2
	Другие	3,2	2,1	2,0	0	1,0	1,5
すべてに反対	Против всех	18	11,7	19,3	20	7,8	7,9
回答困難	Затруднились ответить	12,6	10,0	16,6	17	7,6	14,8

政党支持率(2)

Динамика рейтингов политических сил
政治勢力支持率の推移(%)
Данные ФОМ-Украина⁹



政治家・政党支持率から言えること

- 政党支持率は、党首の支持率に連動している。それだけ、世界観や政策の集団ではなく、「オーナー政党」の性格が強いということ。
- ユーシチェンコ大統領再選の可能性はすでに失われた。国民はオレンジ同盟崩壊、国の難局の責任は、主として大統領にあると受け止めている。
- ティモシェンコ首相の支持率は、ソ連時代の預金の補償措置などの人気取り政策で一時高まったものの、インフレの亢進、秋以降の経済危機で下降線。
- 現在のところ、野党「地域党」のヤヌコヴィチ氏の支持率が最も高いが、同氏にしても株が上がっているわけではなく、ライバルの低迷で一步リードしただけ。
- 2008年12月現在、ユーシチェンコ大統領を支持しない国民は71%に上り、これはクチマ前大統領の最悪期の数字56%より悪い。同様に、ティモシェンコ内閣を支持しない国民は63%で、これはヤヌコヴィチ内閣最悪期の49%より悪い。議会を支持しない国民は69%、中央銀行を支持しない国民は73%に上る。 **つまり、あらゆる国家機構が国民に信用されておらず、「国家の信認の喪失」という事態。**



まとめ(1)

- 今日のウクライナは、経済危機、政治記事、エネルギー危機が同時進行する「トリプル複合危機」の只中にある。
- ウクライナ経済は、鉄鋼や化学肥料などの付加価値の低いコモディティの生産を主力とし、その品質や生産性には大いに問題がある。しかし、過去数年の中国特需、新興国ブーム、エネルギー・資源高、投機マネーの暗躍などを背景に、品位の低いウクライナ製品に対しても旺盛な世界的需要があり、ウクライナは旧態依然とした産業構造を抱えたままで高度成長を謳歌してきた。
- 世界経済危機の勃発により、ウクライナ経済の構造的な問題が露わとなり、それゆえに同国が経済危機で被った影響は世界的に見てもきわめて大きなものとなった。そして、危機の結果、構造的な問題(たとえば鉄鋼業の技術的後進性)の克服もしばらく望めなくなったという皮肉がある。
- 世界経済危機とは別の文脈で、ロシアから輸入される天然ガスが欧州市場並みに引き上げられる方向であり、いわばダブルパンチ。鉄鋼業では、天然ガスからコークスへの転換を促す形となり、結果的に近代化を促進することになるかもしれない。それに対し、化学工業のように、原料であるガスの安さをもっぱら拠り所にしてきたような産業セクターは、淘汰されることも考えられる。
- 世界経済危機にしても、ガスの値上げにしても、長い目で見れば、ウクライナ経済の構造を転換していくうえでプラスに作用するということも十分に考えられる。だが、転換を遂げるためには投資が必要であり、現在はまさにその余裕がない(IMFの緊縮指導も含め)というジレンマ。

まとめ(2)

- 今回ロシアとの間で成立したガス供給・輸送契約は期間10年で、不透明な仲介業者の排除、国際価格連動など、安定につながる内容。しかし、根本的な問題として、ウクライナが国際価格で支払えるのかという疑問。ティモシェンコ首相は、ロシアとは国際価格での支払いを契約し、国民向けにはガスを値上げしないと公約し、IMF向けには財政赤字を抑えると約束している。これらをすべて実現するのは不可能であり、今後その破綻に起因して、ロシアとのガス関係も仕切り直しとなる可能性も否定できない。
- 大統領選挙で、第1回投票で勝つ候補はいないだろうが、決選投票に向けても合従連衡は進まず、低い得票率の弱い大統領が誕生する公算が大きい。したがって、誰が大統領になっても、政情は安定せず、経済が政争によって翻弄される現在のような状況が続くのではないかと懸念される。
- ウクライナのエリート、国民が団結するのは、明白な「悪」に直面した時だけ。現在の状況で、その「悪」の役回りを演じるものは、「経済危機の深刻化」しかないだろう。ウクライナのエリートが小異を捨て大同につくためには、逆説的ながら、経済危機の深刻化を待つしかないのかもしれない。